

1. 単元名(活動名) : Learning from Bangladeshi girls					
2. 対 象 : 北星学園女子中学高等学校 高校 1 年A組 (38名) ・ C組 (22名) 授業者 : 黒岩萌実	3. 学習領域				
		1	2	3	4
4. 教科との関連性 ①異文化に関心を持ち、グローバルな視点を獲得する。 ②英語での表現活動(Writing)	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人 権	環 境	平 和	開 発
5. 実施時期 : 2015年2・3月	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
	6. 時数 : 3 時間				
7. 単元の目標 (評価の観点を意識して設定) ・【関心・意欲】 バングラデシュと日本の違いおよび共通点に関心を持つ。 (振り返り・気づきのワークシート : 1 時間目) ・【技能】 バングラデシュについて関心を持ったこと、そしてジェンダーについて気づいたことを英語で表現する。(英語での手紙 : 3 時間目) ・【知識・理解】 文化的な違い、宗教の違いを理解した上で、ジェンダーイシューという日本とも共通する課題について理解する。 (振り返り・気づきのワークシート : 2 時間目)		8. キーワード : 異文化 ジェンダー			
9. 単元について (教材観、単元設定の理由、開発教育/国際理解教育の視点等) : 経済発展目覚ましい活気あふれる首都ダッカではあるが、街を歩く女性の姿はごくわずかであった。女性は家庭内で家事と育児を行い、男性から“守られる性”である現実には綿々と続いているように見えた。この国の女性たちはどんなジェンダー意識を持っているのか、女性に生まれてよかったと思っているのだろうか、そんな疑問が日増しに大きくなっていった。女性が人間らしく生きる権利が男性と同様に保障されている国はまだない。人口の半分を占める女性が社会的には圧倒的な弱者として世界中で苦しんでいる。札幌で高校生活を送る生徒たちにはこの現実是非常に遠いものであろう。バングラデシュという未知なる国の女子高校生の暮らしや価値観、そして「自分の性への態度」について知ることで、バングラデシュの女性たちが直面している社会状況に目を向けさせたい。それと同時に、日本の女性の社会的地位、家庭内での役割、機会の均等など生徒たちがこれから向き合わなければならない現実気づかせ、どんな社会を目指したいのか考える機会としたい。国境を越えて女性たちが繋がることは平和につながっていく。 ジェンダーイシューは日本とバングラデシュだけの問題ではなく、世界が克服すべき大きな課題であることを実感できるように、国連ウイメンの親善大使である英国の女優、エマ・ワトソンのスピーチを紹介する。遠く離れた国、バングラデシュからの刺激、驚きを一旦受け止め、建設的な視点に立つための力づけとしたい。そして自分は何をしていきたいか、バングラデシュの高校生に語りかけたいことを英語で表現する活動へとつなげていく。英語は目的ではなく手段であること、とりわけ、平和な世界を他国の人々と共に築くための有効な道具であることを体験させたい。					

10. 展開計画 (3 時間扱い)		
展開順	発問・働きかけ 主な学習活動と学習者(児童生徒)の意識	留意点など
1 時間目	<p><1> バングラデシュ基本情報の共有 (10分) スライドを使って、地理、人口密度、宗教、衣食住、歴史、高校の様子などをクイズを交えながら紹介。スライドは全て英語、説明および生徒とのやりとりも英語を使って行う。</p> <p><2> カード活動「Konika and Aya」 (3-4人のグループごとの座席) 指示は日本語。</p> <p>① 「各グループで 18 枚のカードを机にばらばらに広げてください。英語の 1 文が書いてありますが、これは、ダッカの 16 歳の女子高校生 Konika さんと札幌の女子高校生 Aya の生活の様子について書かれたものです。」 「このカードを、 <input type="checkbox"/>ダッカの女子高校生 Konika のカード <input type="checkbox"/>札幌の女子高校生の Aya のカード <input type="checkbox"/>両方に共通するカード の 3 グループに分けてください。裏をみてはいけません。」 (15分)</p> <p>② 「並べ終わったら、カードは裏返してみてください。」</p> <p>③ 「なんで? どうして? という疑問点などを出してください。」 質問に答えながら説明を加える。どうしてそう思ったのか、に注目させ、「思い込み」をただし、「知識不足」を補う。ドラえもん、手を洗う、携帯電話の普及、については現地の写真を見せて確認する。(10分)</p> <p>④「このカード活動をやってみて気が付いたことや今感じていることを発表してください。」 共通点もたくさんあることに気付かせる。(10分)</p>	<p>バングラデシュ訪問前に行ったアンケートから、生徒のバングラデシュに対する知識は、貧困、国旗、暑い、洪水がある、程度だった。 基本事項スライド=<資料 1></p> <p>バングラデシュへの先入観から解放され、どんな国なのか正しい知識を持つための活動。 カードの英文=<資料 2></p> <p>① 黒板に、Bangladesh, Japan, Common の文字と拡大したカードを貼る。</p> <p>各グループでどのカードを間違えているか観察</p> <p>② 全て正解すると、6 枚のカードの裏は、それぞれ、バングラデシュ、日本、両国、に関連した 1 枚の絵となる。各グループで正解を確認することができる。 <資料 2></p> <p>③ カード(4)などから、人々のホスピタリティについて話し、カード(7)(8)からバングラデシュのポジティブな面に光をあてることに努める。また、カード(15)からは日本との繋がりが、カード(6)からは携帯電話の普及について触れ、経済発展や日本との共通点に目を向けさせる。また、カード(5)や(14)から、結婚に関する伝統的な慣習、カード(3)から女性の自由が制限されていることなど、宗教や伝統的な習わしについても触れるが、あまりネガティブになりすぎないように留意したい。</p> <p>気づきのワークシート=<資料 3></p> <p>④ 予想される気づき：「バングラデシュは発展してないと思っていたけど意外と都会」「携帯電話を使うのは日本と同じで驚いた」「女性が住みにくい国だということがわかった」など</p>

2時間目

<3>気づきをプリントに各自まとめる。(5分)

<1>フォトランゲージ：3-4人のグループワーク

- ①ダッカの街の写真を1グループに3枚ずつ配る。
・町並み[1]・旧市街の雑踏[2]・マーケット[3]

「写真を見て気が付いたことをどんどん発表してください。」
「女性はどこにいるんだろう？」

[1]



[2]



[3]



- ②女性の伝統衣装サロワールカミーズの写真を4枚ずつ配る。

- ・縫製工場の工員[4][5]・小学生[6]・ユニクロの売り場[7]

「感じた事、気づいたことを言ってください。」
写真の感想を共有し補足説明を行う。ユニクロが、 Bangladesh でカジュアルウェアを普及しようとして苦しみ、サロワカを売り始めた話など。伝統衣装への愛着について説明。ユニクロでの価格、物価についても簡単に触れる。

[4]



[5]



[6]



[7]



- ①「女性がいない」「看板も男ばかり」
黒板に、気づきを書いていく。

女性は外出しない、母親の9割が専業主婦、買い物も男性が行くことなど、治安の問題、イスラム教の影響など、女性の行動に制約があることを確認する。

「いい」などが予想される。

現地の協力隊員に聞いた話から、生理が始まったころからサロワールカミーズを着る習慣があり、それを着ることがみだしなみとされる。オロナ(ショール)を撒くことも胸や体の線を隠すということでもとても重要、「オロナを付けていないと全裸で歩いている気分」だということ、など、サロワールカミーズが女性への伝統的な行動規範と結びついていることを理解させる。

「サロワールカミーズを日常的に着てみたいと思いますか？」

③サロワールカミーズを1人の生徒に着てもらって、着心地を発表してもらおう。身体を動かしてみたり、各グループを周り、手触り、着心地などを交流。

「走れますか？不審な人に追われたらどうしますか？」

④結婚式の写真を4枚ずつ配る

・幸せそうな二人[8][9]・緊張した表情[10]・嫁が泣いている[11]

「新郎・新婦の表情から何か気が付くことはありますか？」

[8]



[9]



[10]



[11]



「泣いている新婦はなぜ泣いていると思いますか？」

親が相手を選び、わずか数週間で結婚式を迎えることもあるという、伝統的な家制度に基づいた村での結婚制度について。結婚式の日初めて新郎新婦が会うこともある。心の準備ができていない場合が考えられる。

<2>バングラデシュの女子高校生のジェンダー意識を類推し、アンケートの回答について考察する。

「着てみたい」「家の中なら着たい」など

③着ることが社会的な規範になっていることについて再度確認するが、生徒たちはサロワールカミーズの美しさに心をひかれるのではないかな。

④「豪華」「きれい」「カラフル」

「うれしそうじゃない人もいる」

「うれしくて？」

結婚制度が抱える負の部分、早期婚、ダウリー殺人、ダウリーの値段は女性の年齢や容姿で決まることなど、女性の権利が守られているとは言えない状況について捕捉する。

予想される生徒の反応：「ひどい」「女性蔑視」

「かわいそう」「こわい」

アンケート用紙＝<資料4>

「では、こんな社会状況の国に生きているダッカの女子高校生はどんなふうに感じているのでしょうか？女に生まれて良かったかどうかというアンケートにどう答えたか想像してください。このクラスでも同じアンケートをとりましたが、このクラスの結果は『よかった』が10人、『どちらともいえない』が4人、『よくない』が1人でした。さて、ダッカの女子高校生はどうだと思えますか？ダッカの私立高校に通う比較的裕福な家庭の生徒たちです。」

インタビュー、アンケートに答えてくれた女子高校生たちの写真[12]を1枚グループごとに配布する。写真を見ながら想像する。

15名全員が「女に生まれて良かった」と答えたことを告げる

アンケートの回答リストを全員に配る。
「このクラスの回答にない考え方は何だろう？」

相違点に着目させたあと、共通点にアンダーラインをひかせる

「バングラデシュの女子高校生は、男性優位の社会にもかかわらず、自分の性に対してポジティブに捉えています。なぜだろう？」

<3>世界経済フォーラムのGender Gap Rate:2014の国別男女格差ランキングをみて、日本とバングラデシュの現状について考える。

「では、次の資料をみてください。」
世界経済フォーラムのGender Gap Rate:2014(世界142各国の男女格差の小ささの指標)の国別ランキング表を配布。2位、68位、104位、130位が空欄になっている。

「2位、68位、104位、130位の国はどれでしょう？」
Japan, Bangladesh, Finland, Saudi Arabiaの4か国を相談して空欄に当てはめる作業をする。

2位はFinland、130位がSaudi Arabiaであることは比較的容易なので、全体で確認する。

「女に生まれてよかったと思えない人が多い」
「半々ぐらいかな」など、否定的な類推だろう。

[12]



生徒の反応：意外な結果に驚く

「国のために、って書いてある」

アンケート結果=<資料5>

[相違点]：バングラデシュの高校生は、女性として国のために働き、女性の地位を上げたいという気持ちをもっている。
[共通点]：社会的地位が低い事や、女性だからと言って行動を制限されることは不本意だが、女に生まれて良かったと思っている。

「すりこみ」「イスラム教だからしかたない」

Gender Gap Rate 2014=<資料6>

空所の周辺の国も見ながら、相談して決めるように指示

グループを周り、どのような判断プロセスか観察

サウジアラビアは女性の車の運転も認められていない格差が非常に大きな国であることを捕捉。

	<p>日本とバングラデシュが、残りの枠のどちらに当てはまるか2-3のグループに発表させ、日本が104位でバングラデシュが68位であることを告げる</p> <p>指標の内訳の抜粋（バングラデシュが日本よりも高得点の項目）と、過去5年間のランキングの推移表を配布し、目を通させる。</p> <p>「なぜ日本の男女格差が大きいと捉えられているのでしょうか」</p> <p>バングラデシュは国会議員にクォータ制を導入していること、首相が女性だということも確認。日本は大学進学率も欧米諸国に比べると低いこと、賃金格差についても確認する。</p> <p>また、バングラデシュのランキングはここ7年をみると、上昇しており、日本は下降していることにも目をむけさせる。</p> <p><4>再度、「女に生まれてよかったか」のアンケート結果について考える。 「なぜバングラデシュの女子高校生が女性であることにポジティブなのかもう一回考えごらん」</p> <p><5>今日の気づきとバングラデシュの女子高校生と話してみたいことをプリントに各自まとめる。</p>	<p>日本が104位で、バングラデシュが68位だということに生徒たちは大変驚く 「なんで?」「日本のどこがダメなの?」</p> <p>指標の内訳と推移=<資料7></p> <p>「政治家少ないんだ・・・。」「女の首相いない」</p> <p>バングラデシュは女子を中学に入学すると政府から補助金がでて、女子の就学率があがっていることも付け加える。</p> <p>「国会議員に女性が多いから、自分たちも頑張れる」「クォータ制や、女子教育を政府が支援しているから夢がもてる」「状況がよくなってきているから希望が持てる」など</p> <p>※Gender Gap Rateは男女格差のランキングであって、女性の権利獲得やエンパワーメントのランキングではないことを確認する</p> <p>気づきのワークシート=<資料8> 「日本の男女格差におどろいた」「バングラデシュは政府が女性を応援している」「バングラデシュの状況から日本の新しい課題が見えてきた」</p>
--	--	---

<p>3時間目</p>	<p><1>前回の気づきのシェア 前回の「気づき」を返却し、数人に発表してもらおう。</p> <p>「バングラデシュの女子高校生と、何か共に取り組めることはないでしょうか。」 質問を投げかけるのみとし 「世界はこの問題にどう向き合っているのかな？」</p> <p><2>国連ウイメンの親善大使をしている英国の女優 Emma Watson の「HeForShe キャンペーン」のスピーチを聞いて男女差別を是正するための課題は何かを考える</p> <p>①Emma Watson について、スライドを使って導入。Emma は 2010 年に、バングラデシュを訪れ、女性のエンパワーメントの活動に協力している。</p> <p>②国連ウイメンの、女性の地位向上に向けた HeForShe のキャンペーンに際し親善大使であるエマ・ワトソンが 2014 年 9 月 20 日に行ったスピーチ(字日本語字幕付き)の動画を見て感想を言い合う。</p> <p>③スピーチの英語原稿と日本語訳のプリントを配布し、目を通させる。</p> <p><3>エマのスピーチで使われている語彙を活用しながら、バングラデシュの女子高校生に英語で手紙を書く。両国のジェンダーを取り巻く状況に関して感じたことやその他話してみたいことなど自由に。</p>	<p>エマ・ワトソン紹介スライド＝ <資料 9></p> <p>UNWomen SheFor He Campaign Speech 男女平等を達成した国は一つもない、男女平等を実現するにはこの運動への男性の参加が欠かせない、アジア、アフリカで、女性の人権が蹂躪されている例や、自分の子供時代に体験した大人たちのジェンダーバイアスについて語りながら、男女平等な社会を作ることと呼びかける内容。 エマ・ワトソンスピーチ原稿： <資料 10></p> <p>gender, equality, prejudice, human right, discrimination などの語彙について触れる。</p> <p>手紙用紙：<資料 11> 授業で初めて知ったことが多く、自分たちの生活や結婚観と大きな違いを感じ、表現したいことはたくさんあるのでモチベーションは高いと思われる。後日、インタビューに答えてくれたダッカの女子高校生に手紙を送る。</p>
<p>1 2. 苦労した点・改善点</p> <p>英語という教科の中でジェンダーを扱い、生徒たちに気付きや学びを促すために、どのような教科目標を設定すべきか悩んだ。結果、3時間すべてで英語を使った活動につなげることはせず、3時間目の表現活動に力点を置くことにした。1時間目は、バングラデシュの基礎知識スライドを英語版とし、解説も英語で行った。またカード活動のカード内容を英語として、指示・やり取りは日本語で行うこととした。2時間目のジェンダーの授業は母語でしっかりと考え発言させたいというねらいから、すべて日本語での活動とした。3時間目は、英語でのスピーチを聞き、英語で手紙をかくという構成で、3時間の集大成を英語で行うこととした。</p> <p>1時間目のカード活動では、当初、気付かせたいことが多く、カードの枚数を9枚ずつにしたところ、時間がかかりすぎたため、6枚ずつ18枚にしたところ適切だった。また、1時間目の授業で女性の暮らしにく</p>		

さに焦点を当てすぎてしまい、「住みたくない」「女性にはつらい国」などというネガティブなコメントがいくつかあったので、次のクラスでは、宗教的な規律などに入り込み過ぎず、ポジティブな側面も伝えるようにした。2時間目のジェンダーの授業では、バングラデシュが抱える問題や社会状況について、教員が一方的に話して教えるパターンにならないように心がけたが、どうしても説明が多くなってしまったことは否めない。これからの課題である。

1 3. 授業づくりのための参考資料・引用文献

- 『バングラデシュ国づくり奮闘記』池田洋一郎（英治出版）
- 世界経済フォーラムウェブサイト：Global Gender Gap Report 2014
<http://reports.weforum.org/global-gender-gap-report-2014/part-1/the-global-gender-gap-index-2014/>
- エマ・ワトソン 国連ウイメンスピーチ（動画）
<https://www.youtube.com/watch?v=jQbpLVI6DwE>

1 4. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

<1時間目の気づき：カード活動を通してバングラデシュへの先入観を取り除く>

- ①「日本だけだろう」「バングラデシュだけだろう」と思っていたことがことごとく違っていた。
- ②イスラム教により、女性の行動が制限されていて自由が足りないと思いました。
- ③意外と、首都ダッカが日本と同じようなことだということに驚きました。でも、結婚のこととかはとも違うなと思いました。あと、伝統衣装を毎日着ていることがすごいなと思いました。
- ④バングラデシュについての思い込みが激しかったことに気がついた。発達してきてるし、ビルが多かった。人々の生活に宗教がすごく関わっているなと思った。おもしろかった！！
- ⑤バングラデシュの人が、まじめで勉強もたくさんしているのがわかった。清潔なこともわかった。男の人との関わりを若いうちにはもたないことに驚いた。
- ⑥バングラデシュは貧しい国だと思っていたけど、私立高校がたくさんあったり、塾に行ってる人がおおいったり、携帯を持っている人がほとんどだと知ってびっくりした。日本より全然清潔だとわかって申し訳なく思った。
- ⑦日本と全然違う暮らしをしていると思っていたけど、意外と似ているところもあってびっくりしました。ドラえもんが人気なのが特にびっくりしました。
- ⑧バングラデシュでは、結婚する前につきあっちゃいけないのはつらいし、毎日塾に行くのは大変だと思いました。でも、ナースになる人が少なかったり、ドラえもんが好きだったり、驚いた。
- ⑨家電が少なく、携帯なのはいいなって思いました。日本では携帯を買ってもらう時は一苦勞。

★生徒たちにとっては未知なる国であり、貧困、洪水などのネガティブなイメージしか持っていなかった彼女たちが、カード活動によって、思い込みを取り払う作業を仕組むことができた。「思った通りだった」または、「驚きはなかった」という生徒は一人もいなかった。共通点を知り、身近に感じ、清潔・勤勉という日本人が大事にしている価値観を共有することができて、「尊敬」という言葉を書いた生徒もいた。

★評価の観点「関心・意欲」の「日本との共通・相違点に興味を持つ」は達成できたのではないだろうか。

<2時間目の気づき：バングラデシュと日本の男女格差について考える>

- ①日本よりもバングラデシュの方が、差別が少ないのにびっくりしました。今まで当たり前すぎて差別されていることに忘れてしまっていました。
 - ②すごい男女差別があるようだったから、女は嫌だとバングラデシュの女性は思っていると思っていたが、彼女たちは女で生まれて良かったと思ひ、国を良くしようと日々努力していることがわかった。
 - ③バングラデシュの結婚の写真がとてかわいそうだと思います。良い感じの雰囲気の人もいれば嫌な人までいて、日本みたいに自由に結婚できないのは嫌だと思いました。ジェンダーマップで日本よりも男女差別がないことにびっくりしました。
 - ④街には男の人がたくさん。結婚をいやいやさせられる。さらに、顔とか歳とかで夫の家にあげるお金が決まる。でも、女に生まれてよかったと思う人が多い。国のために頑張りたい人が多い。
 - ⑤バングラデシュの方が日本より格差がないということにとて驚いた。そして、女性を優先させるような法律があることがすごく良いなと思った。日本も格差をなくせたらいいなと思った。
 - ⑥バングラデシュの方が女性にとって優しい国なのかも。バングラデシュと比較することによって新しい日本の課題も見えてきた。
 - ⑦バングラデシュの女の子たちは絶対男になりたいだろうと思っていたけど違った。それから、日本の男女間の格差がこんなにひどいと知ってビックリした。
 - ⑧ランキングで日本がこんなにも下なことに気付いた。バングラデシュでは女性の就学を進めていたり、政府が行っていたりするから夢を持つことができるんだと思った。
 - ⑨国を動かす人たちに占める女性の割合は圧倒的に少なく、日本の改善点だと強く感じた。前の授業でバングラデシュへの先入観がとれたと思っていたけど、とれてなかった。
 - ⑩洋服が浸透しない国もあるということ。家族や自分の愛する人が守ってきた生活習慣として、差別的な習慣を尊重する人生を歩むティーンがいるということ。固定的なそういった文化が確立されていない日本で育った私は、国内で実感することはないけれど、バングラデシュの彼女らと比べると、ラッキーな（私にとって）出生だったと思う。
 - ⑪バングラデシュの高校生の方が、社会的な面について考えていて大人っぽいなと思った。日本が女性差別の順位が予想よりもかなり低くてびっくりした。
 - ⑫国は違っても女性に生まれてよかったと思う気持ちは同じなんだなと思いました。あと、日本の男女格差のランキングがけっこう下の方だったのが意外でした。
- ★現地で活動する協力隊員などから聞いた話を交えながら、バングラデシュの結婚制度やダウリーについて話し、伝統衣装のサロワールカミーズを女性が着ることが規範となっていることなど、女性への制限や権利侵害と思われる風習について話した。生徒たちはとても驚いていたが、「気づき」を見ると、日本とバングラデシュの男女格差ランキングで、日本の方が格差が大きいというデータに最も反応していることがわかる。そして、バングラデシュの女子高校生と、自分たちとのアンケート結果を比較したデータを提示したことから、自分たちや自分たちの社会に惹きつけて捉え、バングラデシュの女性をたたえたり、お互いの共通点にきづいたり、また日本の後進性に憤りを感じたり、とバングラデシュの悲惨さではなく、自分が所属する社会について考えることができたことはよかったと思う。
- ★評価の観点「知識・理解」では、バングラデシュの抱えるジェンダーの問題を理解した上で、日本も直面している男女格差について意識化し、向き合うことができたと言える。

<3時間目：バングラデシュの女子高校生への手紙>

手紙①

Hello!! I'm Mugi. I'm a Japanese high school student. Ms.Kuroiwa told me about your country. I was surprised at difference between your country and my country. Do you like your country? I like my country, but my country doesn't have enough to protect rights for women. I hope my country to respect rights for women more. When I heard about treatment of the women in your country, I thought it was tight for me to live. I thought you had the same feeling as me naturally, but it was my mistake. You proud of your country very much and you are pleased that you are a woman. The reasons are your government gives a hope to women. It is great!

In spite of a developed country, gender inequity is not dissolved in my country. This is a world problem, too. What do you think? I want to know your idea.

By the way I wore traditional clothes of Bangladesh. It was beautiful. Japan has a traditional clothes "Kimono", too. It is beautiful, but it is heavy and hard to walk. I want you to try to wear it.

I'm pleased to know about your country. In the world, there are many disputes and violation of human rights now. If you and I understand each other, we'll be able to make good a world. To do so, it is necessary for young people in the world to discuss and to recognize their thought each other. I believe that this latter is the first step to realize world peace.

手紙②

Hello, my name is Mako.

I had some wrong images about your country. I thought Bangladesh is strict for women. But Japan is worse than Bangladesh in the world ranking of gender. I could change your country image and my country image, too. Japanese worst fault is few women take part in government. But Japan has some good thing for women. Japanese women can go out. It is natural for me. But maybe it is not natural for you.

I hope all countries can learn each other more, and adopt other country's good points. Good-bye.

手紙③

Hello. My teacher taught us about Bangladeshi girl. I was surprised at their marriage because I can choose my husband in Japan. So, I'm interested in Bangladesh. I think all women and all men should have equal rights and opportunities. Among them, I think all women should be married with their favorite person. Do you think about marriage?

My country is very big gender gap. I'm ashamed about it. What do you think I do? My teacher said us, "Watch Emma Watson's speech." I watched her speech. She said "Both men and women should feel free to be sensitive. Both men and women should feel free to be strong." I was deep emotion by this message. I think not only men is bad about gender gap. Many men may be heart breaking. So I want to talk with you!

手紙④

Hello, I'm Kie, a Japanese girl and sixteen years old. I'm going to Hokusei Girls' High School. I studied thing of Bangladesh in English class and then I noticed difference between Japan and Bangladesh. For example, how to make up, meal and way of thinking of as woman, another more. We use chopsticks when having meal in Japan. I think very hot that your country's snack. I couldn't eat it. I want to meet you and go to Bangladesh. I hope you come to Japan!!

手紙⑤

Hello. I'm Miwako. I learned about Bangladesh in English class.
First, I was surprised and impressed the results of question that asked it was good for you to be born as girls. Your answers were "For our county..." "For next generation..." We didn't think about like that. Really I want to follow your example. And, I heard about dowry. I was really painful to hear a woman is more cute, dowry is more cheap. I hope the day which any gender gaps disappear from the world comes early.

手紙⑥

Hello, I'm Moe. I learned about Bangladesh. I have misunderstood you. And I have a lot of things that I don't know. I thought Bangladesh is not gender equality of country. But my idea was wrong. In fact, Bangladesh is more gender equality than Japan. We have a lot of things to learn from Bangladesh. I was surprised because women who living in Bangladesh want to work for your country. I think that Bangladesh girl's dream are wonderful. Now, I don't have dream in the future. So I respect Bangladeshi girls who have great dream. I am glad to learn about Bangladesh. Thank you.

- ★ バングラデシュの女性の社会的地位の低さにショックを受けながらも、日本も男女格差が非常に大きい国だということに気付き、課題を共有することができている。また、バングラデシュの女子高校生が国のために夢をもって進んでいることを称賛する内容も多く、バングラデシュから学ぶことがあるということに気付いている。エマ・ワトソンのスピーチによって、世界的課題である男女平等の社会づくりに具体的なイメージを持つことができ、その方法論に共感している。その気持ちをバングラデシュの女子高校生に伝え、意見を出し合い、解決していきたいという気持ちが表われている。
- ★ 普段の授業で行う **Writing** 活動に比べ、表現したい気持ち、伝えたい気持ちが全面に出ていて、どの生徒もかなりの量の英文で感じたことを綴った。不正確な部分も多いが、書きたい気持ちが強く、3回の授業でのたくさんの刺激に押されて、勢いよく書けていた。エマ・ワトソンのスピーチを参考にしたり、自分で単語を調べるなどした生徒が多く、語彙の拡大にもつながった。
- ★ 評価の観点「技能」では、英語を使った表現活動につなげることができた。

15. 備考（授業者による自由記述）

英語を使って途上国の同世代の若者に不正義や差別について自分の意見を伝えようとする生徒たちの姿を見て、英語の教員になってよかったと思いました。英語は平和のために使うもの、と実感することができました。



Where?

Capital City: Dhaka
 Pop: 15 million
 Tokyo: 12 million
 Season: Rainy or Dry

Climate: Very hot in April
 Warm in January

Language: Bengali
 বাংলা লিপি

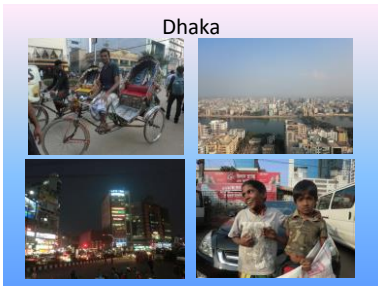
What you already know

Poor

National Flag

Lots of floods

Anything else?



How dense?

<Area>
 BGD: 147,000km² < Japan: 377,000km²

<Population>
 BGD: 150 million > Japan: 130 million



Religion

- Christianity
- Hinduism
- Islam
- Buddhism

No Pork

Traditional Clothes


- Sari
- Ao-dai
- Salwar Kameez

Food

Everything is spicy!

How old is Bangladesh?

India → Pakistan → Bangladesh



Independent since 1971

Only 44 years old

High School Classroom

1st year MATH



Are they different from you?



Now try a card activity!

Sixteen-year-old-girl
Goes to a private high school

Konika **Aya**



I live in Dhaka.

I live in Sapporo.

Doraemon is very popular!



We love rice

Bangladeshi Curry	Japanese Curry
	
40 taka = 60 yen	600yen

How much do you think they are?

Eat with your right hand



Everyone has a cell phone



Garment is the main industry




	カード	別	カードの持つ意味
家族	(1)My mother works outside the home.	Aya	首都ダッカといえども、母親の大半は専業主婦であり、仕事を持つ女性は10%～20%と言われている。日々の食材の買い物も父親が会社帰りに行くことが多く、女性が女性だけで家の外に出ることはあまり奨励されない。男性が料理をすることはほとんどないとされており、家庭内での性別役割分担が顕著と言える。
	(2)My father sometimes cooks dinner.	Konika	
	(3)I go grocery shopping with my mother.	Aya	
	(4)My parents invite guests to dinner very often.	Aya	
	(5)I will choose my husband on my own.	Aya	
	(6)I have one sister or one brother.	共通	
習慣	(7)I take a shower or a bath every day.	共通	暑いため、ダッカの若者は学校が終わると必ずシャワーか沐浴をする。
	(8)I wash my hands before a meal.	Konika	食事は手で食べるので、必ず食事前には手を洗う習慣がある。日本では必ず洗うとは言えないであろう。
	(9)I wear our traditional clothes every day.	Konika	女性のほとんどがサロワールカミーズという伝統衣装を外出時や家庭内で着ている。
学校・教育	(10)I go to <i>juku</i> almost every day.	Konika	受験熱が高まり、帰宅後ほぼ毎日塾に通う高校生が大半。とりわけ都市部ではその傾向が強い。
	(11)My friends living in my neighborhood go to a private girls' high school.	Konika	公立学校の数が非常に少なく、高校はほとんどが私立か NGO 立。政府の政策が教育分野ではまだまだ不十分であることがわかる。
電話	(12)I have a cell phone and use it a lot.	共通	途上国に共通しているが、固定電話よりも携帯電話が先に普及したこともあり、都市部の高校生の7-8割が所有しており、概してヘビーユーザーである。
夢	(13)I want to become a nurse in the future.	Aya	日本では女子の希望の職種の上位に入る看護師だが、バングラデシュでは、男性の体に触れる職業であることがイスラム教の教えに抵触するとされ、また夜間勤務があること、看護師の社会的地位が低いことから、女子高校生にとって希望の職種とは言えない。なり手が少なく全国的に不足状態である。医者や弁護士、銀行家、エンジニアなどが都市部の女子高校生には人気があるようだった。

若者	(14)Some of my friends have a boyfriend.	Aya	結婚前の恋愛や交際はほぼないといってよい。中学・高校もほとんどが男女別学。
	(15)My favorite animation is Doraemon.	Konika	ドラえもん、ハットリ君が人気で、それ以外のアニメがまだ少ない事もあり、高校生でもドラえもんの文房具などをもち、非常に人気がある。
	(16)I'm interested in accessories.	共通	容姿を気にし、おしゃれやダイエットに興味をもつのは共通である。
食事	(17)I eat rice every day.	共通	バングラデシュも主食は米で、米料理をととても好む。
	(18)My favorite meat is beef.	共通	イスラム教の戒律により豚肉は食べないが、鶏、山羊、牛はよく食べ、中でも牛肉がごちそうである。

<18枚のカードの裏のイラスト> 現地の写真を生徒に頼んで絵におこしてもらったもの

	<p>★Konka (バングラデシュ) のカード</p> <p>小舟が重要な交通手段となっている。</p>
---	---

	<p>★Aya (日本・北海道) のカード</p> <p>酪農の風景</p>
--	--

	<p>★共通のカード</p> <p>人力車がバングラデシュに入り「リクシャー」と呼ばれ、今も市民の足となっている。日本とバングラデシュのつながりを伝えたい。</p>
--	--

1時間目 : Introduction to Bangladesh

<資料3>

What you've learned today:

Something new, Surprise or "I like it."

今日の気づき : 日本語でOK



Class No. Name _____

1) 女に生まれてよかったと思う時はどんな時ですか？（複数回答可）

In what situation, or when, do you feel positive [happy] about being female?

それはなぜですか？

Why do you feel that way?

2) 女に生まれていやだな（損だな）と思う時はどんなときですか？（複数回答可）

In what situation, or when, do you feel negative [unhappy] about being female?

それはなぜですか？

Why do you feel that way?

3) あなたは女に生まれて良かったと思いますか？ はい・どちらともいえない・いいえ

Do you think you are lucky to be a girl? Yes / Yes or No / No

なぜですか？

Why do you think so?

4) バングラデシュのイメージ、またはバングラデシュについて知っていること（どんなことでもいいので）書いてください。

What do you know about Japan? Anything is OK

「女に生まれてよかったか」アンケート結果 バングラデシュ&日本

<資料5>

	Nahar Academy High School in Dhaka 高1女子15人	Hokusei Girls' High School in Sapporo 高1女子15人
女に生まれて良かったと思うとき	<ul style="list-style-type: none"> ・家族が愛してくれているし、女であることを喜んでくれる ・親は男兄弟と差別なく扱ってくれる ・友達同士で、勉強や悩みや相談して話せるから ・女子の方が学校の成績がいい ・家族と友だちといるときが楽しいから ・親が勉強のことを応援してくれるから 	<ul style="list-style-type: none"> ・男は泣くなと言われるけど女は泣ける ・暴力的なケンカがない ・服がいろいろあって楽しめる、買い物楽しい ・女子校にはいれるし、毎日女子同志でワイワイやるのが楽しい ・威圧感を与えないから子供がよくなつく ・守ってもらえる存在だから
女に生まれていやだなと思うとき	<ul style="list-style-type: none"> ・男より女が下、低いとみられているから ・女だからってやりたいことに制限がある ・職業の幅が女だからってせまい ・女だけどやれる、ということを見せる機会がない(買い物) ・外に出るなど行動の自由に制限がある ・男子からいやなことを言われる ・平等なはずなのに男性が女性を軽く見ているのがいやだ ・国のために力を発揮できない、制限されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・あぐらをかくな、脚を広げるなどいわれるとき ・男子の方がやりやすい職業が多い ・女性の給料が低い、地位が低い ・女の子らしい服装をしなさいと言われる、スカートなど ・「女の子なんだから～しなさい」と言われるのがいや ・外見で判断される、自分も外見を気にする ・男子よりも服装とかきちんとしていないといけない ・女は陰でぐちぐちする ・女は泣けば許されるよな、と言われた時
女に生まれて良かったと思うか?	Yes 15人	Yes=10人 どちらともいえない=4人 No=1人
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・子供を産んで育てられる ・女性が勉強して国を変えることができる ・次の世代のために母として子供を育てて国のためにはたらく ・女性はすばらしい、命令されなくても他者のために尽くせる ・女性が勉強して国のために頑張ればいい ・バングラデシュの女性のために頑張れる 	<p><Yes></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい命を産んで育てることができる ・好きなものは好きと素直に言える ・優しさの割合が男性より多い、強がらないで助け合える ・女性は社会で低い扱いを受けているから、弱い人の立場にたてる <p><どちらともいえない></p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女どちらでも自分の性をいけることができる、「自分」として生きられる ・男性の方が有利かもしれないけど、女性もできることを証明してやればいい <p><No></p> <ul style="list-style-type: none"> ・女の方が不利な場面が多いから

Gender Gap Ranking (2014) :World Economic Forum

<資料6>

Japan
Bangladesh
Saudi Arabia
Finland

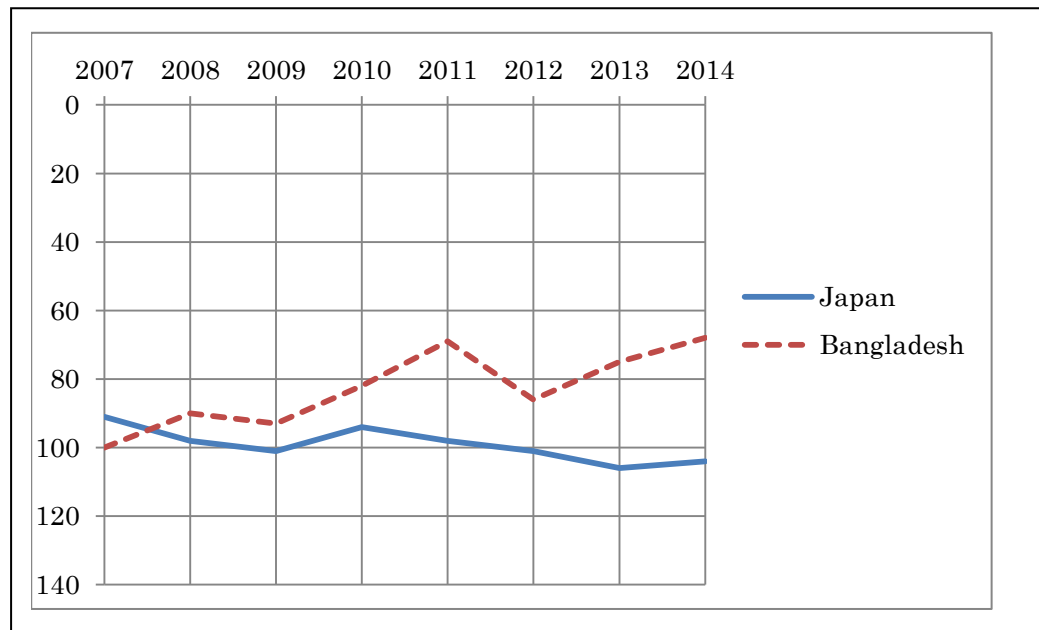
1	Iceland	21	Ecuador	41	Madagascar	61	Thailand	81	Paraguay	101	Ghana	121	Angola
2		22	Bulgaria	42	Mongolia	62	Estonia	82	Uruguay	102	Tajikistan	122	Fiji
3	Norway	23	Slovenia	43	Kazakhstan	63	Zimbabwe*	83	Albania	103	Armenia	123	Tunisia*
4	Sweden	24	Australia	44	Lithuania	64	Guyana	84	El Salvador	104		124	Bahrain
5	Denmark	25	Moldova	45	Peru	65	Israel	85	Georgia	105	Maldives	125	Turkey
6	Nicaragua	26	United Kingdom	46	Panama	66	Chile	86	Venezuela	106	Mauritius	126	Algeria
7	Rwanda*	27	Mozambique	47	Tanzania	67	Kyrgyz Republic	87	China	107	Malaysia	127	Ethiopia
8	Ireland	28	Luxembourg	48	Costa Rica	68		88	Uganda	108	Cambodia	128	Oman
9	Philippines	29	Spain	49	Trinidad and Tobago	69	Italy	89	Guatemala	109	Suriname	129	Egypt
10	Belgium	30	Cuba	50	Cape Verde	70	Macedonia, FYR	90	Slovak Republic	110	Burkina Faso	130	
11	Switzerland	31	Argentina	51	Botswana	71	Brazil	91	Greece	111	Liberia*	131	Mauritania
12	Germany	32	Belarus*	52	Jamaica	72	Romania	92	Swaziland*	112	Nepal	132	Guinea*
13	New Zealand	33	Barbados	53	Colombia	73	Honduras	93	Hungary	113	Kuwait	133	Morocco
14	Netherlands	34	Malawi	54	Serbia	74	Montenegro*	94	Azerbaijan	114	India	134	Jordan
15	Latvia	35	Bahamas	55	Croatia	75	Russian Federation	95	Cyprus	115	United Arab Emirates	135	Lebanon
16	France	36	Austria	56	Ukraine	76	Vietnam	96	Czech Republic	116	Qatar	136	Côte d'Ivoire
17	Burundi	37	Kenya	57	Poland	77	Senegal	97	Indonesia	117	Korea, Rep.	137	Iran, Islamic Rep.
18	South Africa	38	Lesotho	58	Bolivia	78	Dominican Republic	98	Brunei Darussalam	118	Nigeria	138	Mali
19	Canada	39	Portugal	59	Singapore	79	Sri Lanka	99	Malta	119	Zambia	139	Syria
20	United States	40	Namibia	60	Lao PDR	80	Mexico	100	Belize	120	Bhutan	140	Chad

世界経済フォーラム Gender Gap Ranking 2014 の指標抜粋

<資料7>

	①男女格差がない ランキング (142 国中)	②中学就学率	③大学就学率	④同じ仕事内容時 の男性に対する女 性の賃金の割合	⑤国会議員 の女性比	⑥大臣の 女性比	⑦首相が女性 だった期間 (過去 50 年)
Japan	104 位	女:100% 男:99%	女:58% 男:65%	68%	8%	11%	0 年
Bangladesh	68 位	女:51% 男:44%	女:11% 男:16%	58%	20%	7%	21 年
Finland	2 位	女:93% 男:92%	女:103% 男:85%	76%	43%	50%	12 年

Gap Ranking 2017~2014 推移



年	Japan	Bangladesh
2007	91	100
2008	98	90
2009	101	93
2010	94	82
2011	98	69
2012	101	86
2013	106	75
2014	104	68

単位:位

2 時間目 : Bangladesh, Japan and Gender

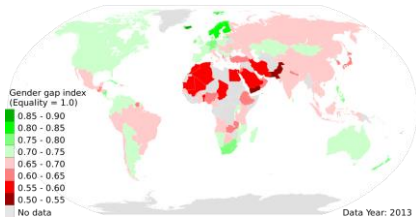
<資料 8 >

今日の気づき

バングラデシュの高校生と話してみたいこと、一緒にしたいこと

Class No. Name _____

What is the world doing for gender equality?



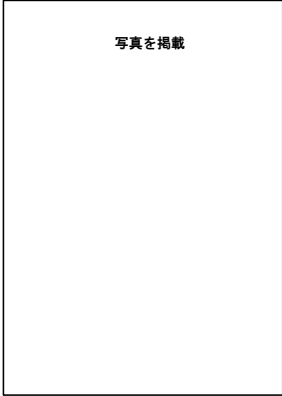
Do you know this girl?



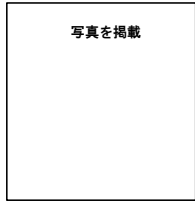
Emma Watson

**Now
24 years old**

**Graduated from
Brown Univ.
in May**



She visited Bangladesh in 2010



**To empower
women**

**Emma was Appointed
UN Women Goodwill Ambassador**

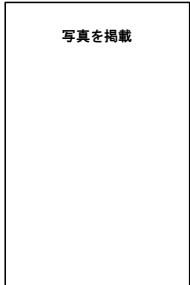
UN Women: Mission

*Leadership and
political participation*

Economic empowerment

Ending violence against women

Peace and security



**She Gave a Speech
at UN Women**



HeForShe campaign

**Do you want
to watch it?**

Emma Watson's Speech

for Gender Equality at the UN on Sep 20, 2014

<Full Script>

Today we are launching a campaign called for HeForShe. I am reaching out to you because we need your help. We want to end gender inequality, and to do this, we need everyone involved. This is the first campaign of its kind at the UN. We want to try to mobilize as many men and boys as possible to be advocates for change. And, we don't just want to talk about it. We want to try and make sure that it's tangible.

I was appointed as Goodwill Ambassador for UN Women six months ago. And, the more I spoke about feminism, the more I realized that fighting for women's rights has too often become synonymous with man-hating. If there is one thing I know for certain, it is that this has to stop.

For the record, feminism by definition is the belief that men and women should have equal rights and opportunities. It is the theory of political, economic and social equality of the sexes.

I started questioning gender-based assumptions a long time ago. When I was 8, I was confused for being called bossy because I wanted to direct the plays that we would put on for our parents, but the boys were not. When at 14, I started to be sexualized by certain elements of the media. When at 15, my girlfriends started dropping out of sports teams because they didn't want to appear muscly. When at 18, my male friends were unable to express their feelings.

I decided that I was a feminist, and this seemed uncomplicated to me. But my recent research has shown me that feminism has become an unpopular word. Women are choosing not to identify as feminists. Apparently, I'm among the ranks of women whose expressions are seen as too strong, too aggressive, isolating, and anti-men. Unattractive, even.

Why has the word become such an uncomfortable one? I am from Britain, and I think it is right I am paid the same as my male counterparts. I think it is right that I should be able to make decisions about my own body. I think it is right that women be involved on my behalf in the policies and decisions that will affect my life. I think it is right that socially, I am afforded the same respect as men.

But sadly, I can say that there is no one country in the world where all women can expect to see these rights. No country in the world can yet say that they achieved gender equality. These rights, I consider to be human rights, but I am one of the lucky ones.

今日、私たちは「HeForShe」というキャンペーンを開始します。私が今、どうしてみなさんに呼びかけているのか。それは、みなさんの協力が必要だからです。私たちは性の不平等を終わらせたいのです。そのためには一人一人が参加することが不可欠です。

これは国連で初めて行われるキャンペーンです。私たちはできる限り多くの男性と少年たちが男女平等の代弁者となるように挑戦し、刺激したいと思っています。また、ただこうやって話すだけではなく、それを実感できるものにしたいのです。

私は6カ月前、大使に任命され、フェミニズムについて語るが多くなりました。話せば話すほど、女性の権利に対する闘いは、ほとんどの場合、男性嫌悪と同義語になってしまっていることを実感するようになりました。私が確信できることが一つあるならば、こうした問題に終止符を打たなくてはならないということです。

参考までに、フェミニズムとは定義上で「男性と女性が平等な権利と機会を持つべきだとする信念。これは両性の政治的、経済的、社会的平等の理論である」とされています。

私は性別による考え方について8歳ごろから疑問を持つようになりました。それは親たちのために準備していた劇の監督に私になりたいと言ったら、他の子たちから「えらそうに」と言われ、戸惑ったからです。男の子たちが何かをやるうと言い出した時には、そんなことはありませんでした。

14歳の時、私は一部の報道で性的対象のような扱いを受けました。

15歳の時、私の女友達は所属していたスポーツチームを次々と辞めていきました。筋肉質になるのがいやだったからです。

18歳の時、私の男友達は彼らの感情を表現することができなくなりました。

フェミニストであろうとする決断が、自分にとって難しい事態を招くとは思っていませんでした。しかし最近、自分なりに調べた結果、フェミニズムは好ましくない言葉として使われていることがわかりました。

実際、私は表現が過激で、攻撃的であり、協調性がなく、男性嫌いで、そして魅力的じゃない女性として分類されているようなのです。

なぜこの言葉がそれほど不快なのでしょう？

私はイギリス出身で、女性が男性の同業者と同じ賃金を支払われることは正しいと思っています。私は自分自身の体について、自分が決められることは正しいと思います。

私は、私の代わりに女性たちが我が国の政策と決議に参加することは正しいと思います。

私は、社会的に男性と同じくらい尊重されることは正しいと思います。

しかし残念ながら、こうした恩恵を全ての女性が受けられる国は一つもないと断言できます。世界中のどの国も、未だに男女平等を確立したと言えるところはありません。こうした権利こそが人権なのだとは自分は思います。私は恵まれた人間です。

My life is a sheer privilege because my parents didn't love me less because I was born a daughter. My school did not limit me because I was a girl. My mentors didn't assume that I would go less far because I might give birth to a child one day. These influences were the gender equality ambassadors that made me who I am today. They may not know it, but they are the inadvertent feminists that are changing the world today. We need more of those.

And if you still hate the word, it is not the word that is important. It's the idea and the ambition behind it, because not all women have received the same rights I have. In fact, statistically, very few have.

In 1997, Hillary Clinton made a famous speech in Beijing about women's rights. Sadly, many of the things that she wanted to change are still true today. But what stood out for me the most was that less than thirty percent of the audience were male. How can we effect change in the world when only half of it is invited or feel welcome to participate in the conversation?

Men, I would like to take this opportunity to extend your formal invitation. Gender equality is your issue, too. Because to date, I've seen my father's role as a parent being valued less by society, despite my need of his presence as a child, as much as my mother's. I've seen young men suffering from mental illness, unable to ask for help for fear it would make them less of a man. In fact, in the UK, suicide is the biggest killer of men between 20 to 49, eclipsing road accidents, cancer and coronary heart disease. I've seen men made fragile and insecure by a distorted sense of what constitutes male success. Men don't have the benefits of equality, either.

We don't often talk about men being imprisoned by gender stereotypes, but I can see that they are, and that when they are free, things will change for women as a natural consequence. If men don't have to be aggressive in order to be accepted, women won't feel compelled to be submissive. If men don't have to control, women won't have to be controlled.

Both men and women should feel free to be sensitive. Both men and women should feel free to be strong. It is time that we all perceive gender on a spectrum, instead of two sets of opposing ideals. If we stop defining each other by what we are not, and start defining ourselves by who we are, we can all be freer, and this is what HeForShe is about. It's about freedom.

I want men to take up this mantle so that their daughters, sisters, and mothers can be free from prejudice, but also so that their sons have permission to be vulnerable and human too, reclaim those parts of themselves they abandoned, and in doing so, be a more true and complete version of themselves.

私の人生は本当に恵まれています。それは両親が私が娘だからといって愛情をそくようなことをしなかったからです。私の学校は、私が女子だからといって何かを制限することはありませんでした。私を指導した人たちは、私がいつか子供を生むだろうからといって可能性を過小評価することはありませんでした。私に影響を与えてくれたこうした人たち一人ひとりが、今日の私を作り上げたのであり、男女平等の親善大使たちなのです。彼らはこの事実を知らないかもしれませんが。しかし彼らこそが隠れたフェミニストなのです。

そして私たちはもっとそういう人たちが必要なのです。フェミニストという言葉が嫌いでも、その言葉自体が重要なのではなく、その背景にある理念と大きな志が大切なのです。なぜなら、世界の女性たちが私と同じ権利を受けられていないからです。実際に、統計的には、ほんの少数だけです。

1997年にヒラリー・クリントン氏が北京で女性の権利について有名な演説をされました。残念ながら、彼女が変えたかったことの多くは未だに現実として残っています。

しかし私が一番引っかけたのは、その演説を聞いていた男性は全体の3割以下だったことです。一方の人々が会議に出席しないで、どうやって世界に変化を与えることができるでしょうか？

男性のみなさん、私はこの場をみなさんへの正式な招待状を送る機会にしたいと思います。男女平等はみなさんの課題でもあるのです。

なぜなら、今日まで私の父親が、親としての役割を社会の中で低く評価されてきたのを見てきました。子供の私が、母親と同じくらい彼の存在を必要としているにもかかわらず、です。

男らしくないと見られるのを恐れ、助けを求められずにいて精神的に病んでしまう若い男性たちを見てきました。実際に、イギリスでは自殺が20歳から40歳までの男性の間で最大の死亡原因となっています。これは交通事故、がん、そして心臓疾患も上回ります。男性として成功に必要なものはこれだ、という歪んだ概念によって男性が自信を失い、不安に陥る姿を見たこともあります。男性もまた、平等の恩恵を受けてはいないのです。

私たちは、男性がジェンダーの固定概念に縛られていることをふだん話題にはしません。しかし私にはそう見えます。そして、男性がそうした固定観念から自由になれば、女性の側にも自然に変化が訪れるはずですよ。

もし、男性が女性に認められるために男らしく積極的になる必要がなければ、女性も男性の言いなりにならなければとは感じないでしょう。もし男性が女性をコントロールする必要がなければ、女性も男性にコントロールされる必要はありません。

男性、女性、どちらも弱さを感じる自由があります。男性と女性どちらも強くなる自由があります。今こそ私たち全員が、ジェンダーをを2つの考え方の対立としてではなく、繋がっているものとして認識する時です。

もし、私たちが「私たちはちがう」という定義づけをやめ、ありのままの私たちとして定義しはじめたら——全ての人々がもっと自由になります。そしてこれこそが「HeForShe」の核心なのです。これは自由に関することなのです。

私は、男性にこの足かせを取り外してほしいのです。それによって彼らの娘、姉や妹、そして母親が偏見から解放されるだけでなく、彼らの息子たちも弱さを持つ人間であっても許されるように。彼らが手放した自分らしさを取り戻し、そうすることでより本物で完全な姿の自分になれるように。

You might be thinking, “Who is this Harry Potter girl, and what is she doing speaking at the UN?” And, it’s a really good question. I’ve been asking myself the same thing.

All I know is that I care about this problem, and I want to make it better. And, having seen what I’ve seen, and given the chance, I feel it is my responsibility to say something.

Statesman Edmund Burke said, “All that is needed for the forces of evil to triumph is for good men and women to do nothing.”

In my nervousness for this speech and in my moments of doubt, I told myself firmly, “If not me, who? If not now, when?” If you have similar doubts when opportunities are presented to you, I hope those words will be helpful. Because the reality is that if we do nothing, it will take seventy-five years, or for me to be nearly 100, before women can expect to be paid the same as men for the same work. 15.5 million girls will be married in the next 16 years as children. And at current rates, it won’t be until 2086 before all rural African girls can have a secondary education.

If you believe in equality, you might be one of those inadvertent feminists that I spoke of earlier, and for this, I applaud you. We are struggling for a uniting word, but the good news is, we have a uniting movement. It is called HeForShe. I invite you to step forward, to be seen and to ask yourself, “If not me, who? If not now, when?”

Thank you very, very much.

出典 (原文) : UNWomen Official Site

<http://www.unwomen.org/en/news/stories/2014/9/emma-watson-gender-equality-is-your-issue-too>

みなさんは、このハリー・ポッター・ガールは一体何ものなんだと思うかもしれません。お前が国連の舞台で何をしているんだと。それは実に的を射た疑問です。信じてほしいのですが、私も同じ疑問を自分自身に問い続けています。私がこの場にふさわしいかどうかはわかりません。わかるのは、私がこの問題を真剣に考えているということです。そして私は、現状を改善させたいと思っています。

また、今まで自分の目で見えてきたことを通して、そして機会も与えられたことで何か発言していくことが私の使命だと感じています。イギリスの政治家エドモンド・バークは「悪の勢力が勝つのは簡単なことで、善良な男と女が何もしないだけでいい」と言いました。

この演説をするにあたって緊張感と疑念が頭をよぎる時、強く自分自身に言い聞かせました。私でなければ、誰がやるのか。今でなければ、いつやるのか。もしみなさんに機会が訪れて同じような迷いを感じたときには、この言葉が助けになるかもしれません。

なぜなら、現実はまだ私たちが何もしなければ、今後何十年先になっても、または私が 100 歳近くになっても、女性が同じ仕事をして男性と同額の報酬をもらえないかもしれません。世界の 1550 万人の女の子たちが、この先 16 年間の間に子どものままで結婚させられます。

アフリカの農村に暮らす女の子たちの全てが中学校に通えるようになるには 2086 年までかかってしまいます。

もし、あなたが平等を信じるなら、あなたも私が先ほど述べた「無意識のフェミニスト」かもしれません。

そうならば、私は拍手を贈ります。

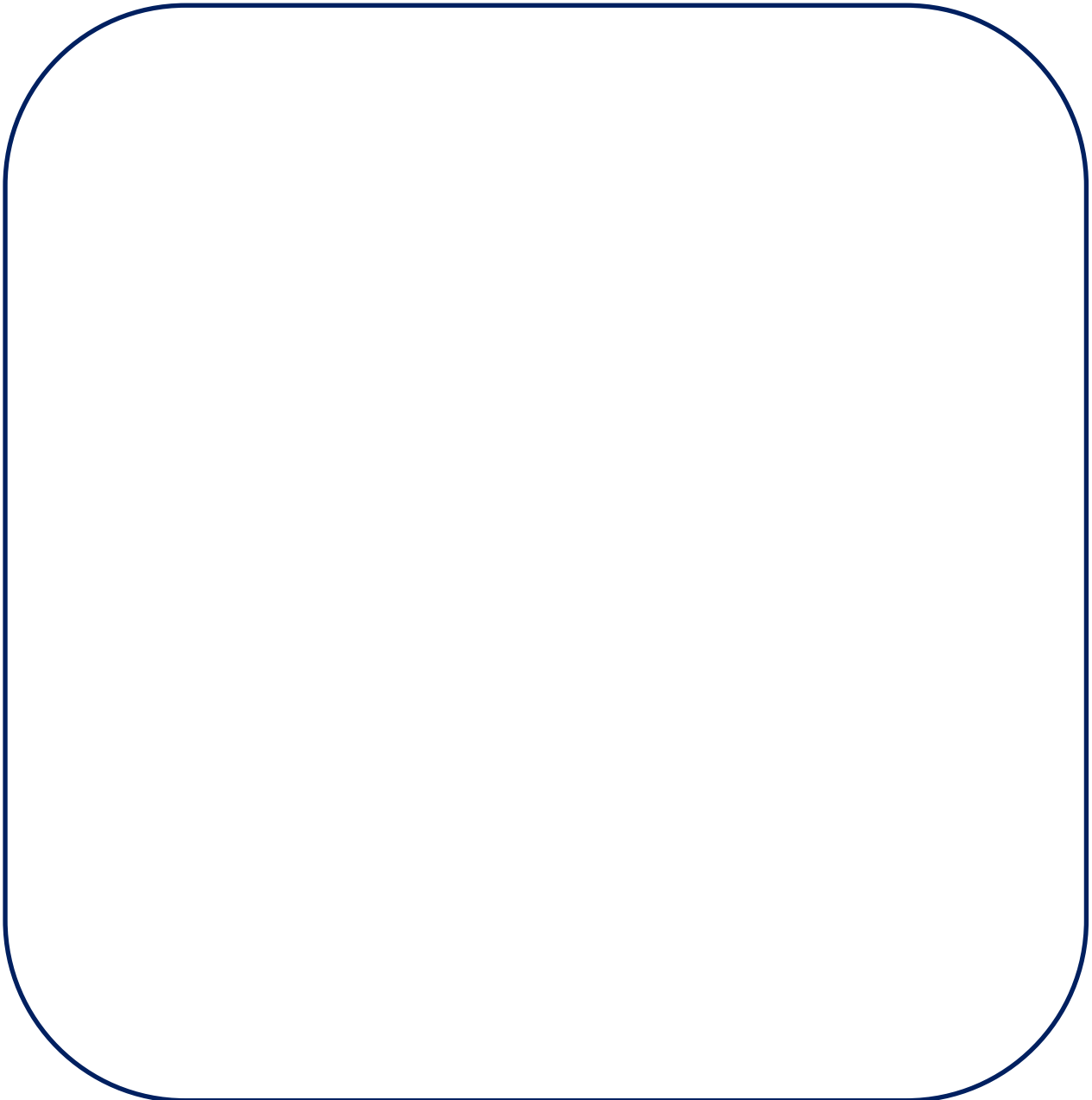
私たちは、私たちを一つにする言葉を見つけられていません。しかし良いニュースもあります。私たちが一つになれる運動があることです。それを「HeForShe」と呼びます。私はみなさんが一歩を踏み出し、声を上げて、「彼女のための彼になる」ことを奨励します。そして自分自身に問いかけてください、私でなければ、誰がやるのか。今でなければ、いつやるのか。

ありがとうございました。

出典（和訳）：The Huffington Post

http://www.huffingtonpost.jp/emma-watson/we-want-to-end-gender-b_5871850.html

☆Write a letter to the Bangladeshi girls by using what you've learned from our discussion and Emma's speech.



Class No. Name _____